

第3回御嶽山噴火に伴う木曾川上流域水質保全対策検討会

会議資料
(牧尾ダムの今後の貯水池運用)

平成27年2月12日

(独)水資源機構中部支社

牧尾ダムの今後の貯水池運用

今年の融雪期における牧尾ダム運用については、以下の点を総合的に勘案し決定する必要がある。

- ・汚濁防止膜(天端高EL837m)の機能を保持すること。
- ・関電取水塔スクリーン工事及び三尾発電所取水塔からの取水再開に向けての角落とし設置工事の施工性(水深・透視度等)
- ・利水補給計画や関電発電計画
- ・融雪期出水に伴う白濁水の流入や貯水池に沈降している噴火物の連行による貯水池白濁化の状況



【機構提案】

- ・上記を考慮し、牧尾ダム貯水池の水質を監視しつつ、3月上旬でEL848mまで下げる通常運用を行う。
- ・その後の牧尾ダム貯水池運用(3月末に向けた貯水池管理)は、気象状況、貯水池白濁化の状況等を勘案し、関係機関等と調整しつつ運用を行う。

牧尾ダムの今後の貯水池運用

- ・牧尾ダム通常運用を行うため、近年のダム流入実績より $15\text{m}^3/\text{s}$ 以上($15\text{m}^3/\text{s}\sim 30\text{m}^3/\text{s}$)の放流が必要となることが想定される。
- ・ $15\text{m}^3/\text{s}$ 以上の放流については、12月15日～12月18日に実施した試験放流と同様に中断基準を設け、2月中旬以降増量放流(段階的に増量)を行う。
- ・六段橋(放流口)、落合取水口、兼山取水口で水質監視を行う。
- ・実施の際には関係機関に情報提供を行う。